



ヴァンデルモンド行列とその逆行列

定義. x_1, x_2, \dots, x_n を含む n 次正方行列

$$V = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & \cdots & 1 \\ x_1 & x_2 & x_3 & \cdots & x_n \\ x_1^2 & x_2^2 & x_3^2 & \cdots & x_n^2 \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ x_1^{n-1} & x_2^{n-1} & x_3^{n-1} & \cdots & x_n^{n-1} \end{pmatrix}$$

を (n 次) ヴァンデルモンド行列という.

ヴァンデルモンド行列 V の行列式 $\det V$ は, 差積

$$\prod_{1 \leq i < j \leq n} (x_j - x_i).$$

なので¹, x_1, \dots, x_n が相異なるとき, $\det V \neq 0$ であり, V は, 逆行列を持つ. この逆行列を記述するために, 記号を用意する. $i = 1, \dots, n$ に対して, x の関数 $l_i(x)$ を,

$$l_i(x) = \prod_{\substack{k=1 \\ k \neq i}}^n \frac{x - x_k}{x_i - x_k}$$

で定める² と, $l_i(x)$ は, $n - 1$ 次関数であり, $j = 1, 2, \dots, n$ に対して,

$$l_i(x_j) = \begin{cases} 1 & (j = i) \\ 0 & (j \neq i) \end{cases} \quad (1)$$

が成り立つ. $l_i(x)$ の展開式における j 次項の係数を $v_{i,j}$ とおき, 定数項を $v_{i,0}$ とおく. これにより, $l_i(x)$ は,

$$l_i(x) = v_{i,0} + v_{i,1}x + v_{i,2}x^2 + \cdots + v_{i,n-1}x^{n-1}$$

と表せる.

命題. x_1, \dots, x_n が相異なるとする. このとき, ヴァンデルモンド行列 V の逆行列は,

$$V^{-1} = \begin{pmatrix} v_{1,0} & v_{1,1} & v_{1,2} & \cdots & v_{1,n-1} \\ v_{2,0} & v_{2,1} & v_{2,2} & \cdots & v_{2,n-1} \\ v_{3,0} & v_{3,1} & v_{3,2} & \cdots & v_{3,n-1} \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ v_{n,0} & v_{n,1} & v_{n,2} & \cdots & v_{n,n-1} \end{pmatrix}$$

と表せる.

証明. 積 $V^{-1}V$ の i 行 j 列は,

$$(v_{i,0} \ v_{i,1} \ v_{i,2} \ \cdots \ v_{i,n-1}) \begin{pmatrix} 1 \\ x_j \\ x_j^2 \\ \vdots \\ x_j^{n-1} \end{pmatrix} = l_i(x_j)$$

である. よって, (1) から, $V^{-1}V$ は単位行列である. □

¹<https://gleamath.com/vandermonde-determinant/>

²ラグランジュ基底多項式と呼ばれる. <https://gleamath.com/lagrange-interpolation/>